乙訓平和委員会ニュース

発行年日２０２０年１０月５日　№３６８発行・乙訓平和委員会　編集責任者・米重節男
電話・ＦＡＸ　０７５－９３２－３５４６　ＭＡＩＬ　heiwaotokuni@gmail.com

「権力はガンガンガンガン使うもの」と安倍晋三氏
衣の下が見えた菅首相！　安倍前政権を継承！！

日本の学者の国会とも言われる日本学術会議の新会員に推薦された人たちのうち、６人を菅首相が任命しなかったことから、学問の自由侵害、学術会議に対する介入とか、さまざまな角度からあってはならないことと、大問題になっています。

日本学術会議と言われても、ほとんどの人は知らないため、何が問題なのかも理解できないと思われます。そのため報道でも、日本学術会議についての解説からしています。あたかも東電福島原発事故で、原発の仕組みや放射能について、日本国民がにわか勉強したような状況が起こっています。とは言っても、原発事故のように住民がじかに被害を受けることはないため、成り行きを見ている状態でしょう。

今回の任命拒否は、菅政権の性格を示したものと言えます。菅義偉氏が首相になると、政界に血縁・地盤・金もない裸一貫の苦労人だと、マスコミは持ち上げていましたが、政権誕生から２週間も経たぬうちに、彼の隠れた面の報道が増えています。

菅首相は、前の安倍政権の継承をとなえて動き始めました。菅氏は史上最長となった安倍首相を支える官房長官として、一体になって手腕を発揮したというのが一般的評価です。その実態からは、菅氏は安倍氏の衣の下の鎧だったという面が伺われます。

安倍政権は強権的な手法で、これまでの政権ができないとしていたことを、多数の国民が反対しても、次々と閣議決定などで解釈を変え、出来ることにしました。それで安倍首相は歴代最悪だと言う人も多くありますが、具体的にそれを実行したのは菅官房長官です。安倍氏は表に立って口先での扇動で、実務的に取り仕切って実行したのは菅氏で、むしろ張本人だったのではと思われます。

（２面につづく）

地元秋田県の会員から寄稿してもらいました。

安倍政治の真実明らかに
菅氏、地方分かるわけない

秋田県湯沢市　藤森　昇（70）

怖い令和のおじさんの登場で秋田の山間部、湯沢市秋ノ宮が突然ににぎやかになっています。かのおじさんと私の実家は5、6軒ほどしか離れておらず、現在は私の家は解体され、おじさんの家は空き家です。少し秋ノ宮の歴史をひもといてみます。秋ノ宮は県南部で、東は岩手県、南東は宮城県、南西は山形県が隣です。地名の由来は、秋田の秋と、宮城に通ずるため宮の字を掛けたそうです。

山間、高地のために米作は冷害に弱く、養蚕、タバコ、製炭で、子どもらの遊び場である城跡公園がホームグラウンド。この地を流れる役内川の清流は、ヤマメ、イワナ、カジカ、オニヤンマにカジカガエルの声が聞こえる豊かな所です。

さて、御総理大臣就任に際しては、花火やのぼり旗の購入に寄付を募り、お祭り騒ぎでした。そんな中にも、かなりの人が「のどごと」（不平不満をぶつぶつ言うことの方言）を言う人もいました。

長い間苦労して秋ノ宮で生活してきた人々が、さて老後ほと考えた時に低年金、脆弱な足、介護職員の不足、医療機関の不足、ましてコロナで今後ますます不安な生活。

地方出身で地方が分かると言っていますが、この地元の方々の多くはあの人は都会人で、しかも村を壊してきた政府の中枢にいる人、分かるわけがないと話しています。

まずは、安倍政治の中身の真実を明らかにすることから始めなければならない大きな責任があります。

（生活と健康を守る新聞10月4日付第2521号から転載）

その菅氏が首相になったのですから、口も手も出す。それも淡々と強権を発動するのでしょう。そこで思い起こされるのは、安倍首相が言った言葉です。

故岸井成格氏（TV ニュース番組でコメンテータ）の話

岸井氏が安倍首相に元総理大臣の故宮沢喜一氏が語った「**権力の行使には慎重であるべきだ。これが保守の本流だ**」という話を伝えたところ、「**それは宮沢さんが間違いです。今までの保守が間違いです。権力は積極的に行使してこそ、国民の負託にこたえるものです。権力はガンガンガンガン使うものなんですよ**」と即答したとのことです。権利は行使しなければ失いますが、権力を権利と混同しているのではと思えます。安倍氏は、首相発言でしばしば「**責任感**」を「**痛感**」、「**スピード感**」「**緊張感**」「**危機感**」をもって、「**達成感**」など「〇▲感」をよく口にして、さも「**やってる感**」を演出し、出された疑問にはまともに答えないことが多々ありました。官房長官の菅氏も不都合な質問、指摘には問答無用で切り捨てていました。このような安倍政権時代を継承したのですから、今回の任命拒否は極めて意図的な行為です。

私が現役の時に、政治の場ではありませんがトップを補佐し実務的に具体化する役に、永年にわたって携わっていました。その経験からすると、今回の菅首相は安倍氏の時には陰に隠れていて、国民からは見えなかった部分が表に出て、もっと悪い動きになると見ています。

２０１６年にも学術会議の人選に官邸が難色を示し選出されなかったとの報道も出ています。国民の声を無視して、権力を振り回す政治はゴメンです。安倍首相は終わりましたが、安倍流の政治が菅首相でますます磨きがかかり、国難になることにさせないために、国民の声をあげる必要があります。

学術会議委員の任命拒否は許せないことです。乙訓平和委員会としても、強く抗議し撤回を求めます。

インターネット上では、さまざまな事案に賛同を募るサイトがあり、そのひとつに『Change.org』があります。個別テーマ毎に賛同者を募り、その声をもって要望や抗議するなどの活動が進められ、世論形成に大きな力を示した実績があります。ぜひ、これらも活用して、声をあげましょう。

（文責：米重節男）

乙訓平和委員会の役員会で相談しました

８月の総会後、新年度最初の理事会を９月１５日に開き、今後１年間の活動について議論しました。

その中で、戦後７５年、お盆の墓参りなどから話題となりました。また、これまで平和と言って活動してきたが、教科書の問題や青年の育った社会環境の変化など考えると。何を主題に平和活動するか考え直す必要がある、との認識が示され議論しました。その結果、具体化することにしたのは次の事項です。

①シベリア抑留経験者の話を聞く。具体的な候補者名もあげられ、具体化に向けて関係先と調整する。

②旧軍人遺族のことが話題となり、軍人恩給の仕組みや戦災被害者への補償との関連、旧軍人遺族との関係など、いまある制度が具体的にはどうなっているのか勉強してみる必要がある。適任者を探して、お願いして学習会を開く。

③会員になってもらうことと、今の役員では高齢化でいずれ限界が来るので、組織的な整備・見直しをしていく。

④会員の慶弔見舞について、これまでの取り決めを整備して規定を作成する。

お願い　９月は会費・紙誌代を集める月でした。まだの人は納入をお願いします。